

# ISSUE

[ 繋ぐ ]

究める Special Issue:

## ウイットに富んだ場面を描く 「からくり」ペーパークラフト

拓く

日本最大級のファッション展示会「FaW TOKYO」に  
産学連携プロジェクトによる「OJO+」作品を出展

先どる

和紙で動物のぬくもりを表現する  
キワムさんの切り折り紙アート

## 遊び心ある物語を生み出す 「からくり」で動く紙造形

四角いボックスと一体となった、ユニークなモチーフの立体造形作品。飾って眺めるオブジェとしても十分楽しめるものですが、実は丸いハンドルを回すとパーツが動き出す「からくり」を含んだペーパークラフト作品なのです。緻密な設計とひねりの利いたユーモアが融合したその作品は、誰もが思わずクスッと笑ってしまうウィットに富んだシーンを表現しています。平面の紙が立体となって動き出すペーパークラフト作品の魅力について、ペーパーエンジニアの坂けいすけさんへのインタビューから紐解いていきます。



アオウミガメの涙



KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU (繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

**究める** ..... P01

遊び心ある物語を生み出す  
「からくり」で動く紙造形

**先どる** ..... P07

和紙で動物のぬくもりを表現する  
キワムさんの切り折り紙アート

**訪ねる+** ..... P09

本を中心として新たな出会いを育む  
ブックカフェ&書店の魅力を総括

**伝える** ..... P11

昭和を代表する女流作家が綴った  
穏やかな近況を伝える新春の便り

**拓く** ..... P13

日本最大級のファッション展示会  
「FaW TOKYO」に  
産学連携プロジェクトによる  
「OJO+」作品を出展

**深める** ..... P15

本社ロビーに「キャンピングオフィス」  
ショールームを開設

**作る** ..... 付録

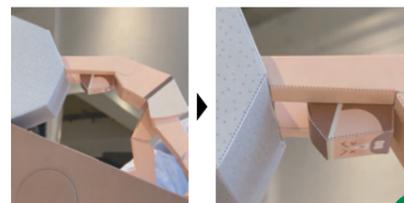
坂けいすけさん特製  
からくりで動く「ベガサス」



カメの競争



\ Pick Up! /

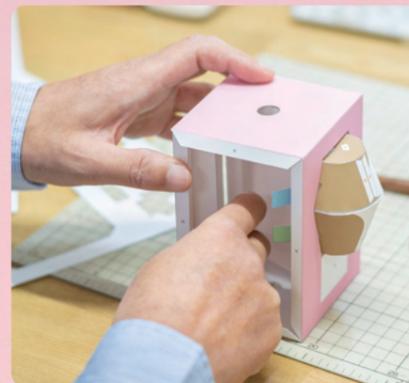


シーシュボスの岩

フランス人作家・カミュの著書『シーシュボスの神話』がモチーフ。神々の怒りを買ったシーシュボスが山頂に向かって巨大な岩を運び続ける。



動画はこちら!



「へそ天」のからくりを組み立てる様子。



へそ天

子どもから大人まで楽しめる!

坂けいすけさんのからくり立体作品



坂 けいすけさん

ペーパーエンジニア / グラフィックデザイナー

1965年生まれ、富山県出身。神戸大学文学部を卒業後、桑沢デザイン研究所にてグラフィックデザインを学び、在学中から複数のデザイン事務所に勤務。1994年に独立後、3年間のデンマーク滞在を経て、2000年に友人とともにデザイン事務所「図工室」(東京都渋谷区)を設立。代表作となる「からくりペーパークラフト」シリーズは幅広い世代から人気を集め、国内外にファンを広げている。



公式サイト (作品介绍)



オンラインショップ (国内向け)



オンラインショップ (海外向け)



バベルの塔



社会的距離



ペンギンの見果てぬ夢



カンガルー・ケア

\ Pick Up! /



まないたの上

ハンドルを回すと、まな板の上の鯉がピチピチと勢いよく跳ね続ける。



動画はこちら!



ためらう男



大脱走



退屈な映画

また、からくり作品を考える際、坂さんは二つの方向性から発想を広げていくそうです。「ひとつは、モチーフと動きを最初に決めて、それを具現化するための仕掛けを考えるパターン。猫が仰向けになって身体をよじらせる『へそ天』という作品は、猫の動きが面白そうだなという発想ありきで創作した作品です。もうひとつは、仕掛けの動きをひたすら眺め、その動きからモチーフを連想するパターン。ベースになるさまざまな仕掛けから、その動きを何に見立てるかを考えていきます。どちらにしても、ぼんやりとしたアイデアの断片が常に頭にあって、いろんなものを見たり考えたりするうちに新しい形に結びついて、ひとつの作品が生まれるわけです」(坂さん)。

こうした試行錯誤の末に完成した作品は約60点。そのうち40点以上は、展開図や説明図がセットになった工作キット(PDF形式)として、データ販売されています。「私のつくる作品は、他の人がつくるという前提で設計したものが大半です。そのため、説明の『わかりやすさ』や、誰もが気軽に組み立てることのできる『つくりやすさ』も大切になってくる。さまざまな制約がある中で知恵を絞って細かく設計する仕事のスタイルが、自分に合っているんだと感じています」。

日本におけるからくりペーパークラフトの先駆者として長く活躍を続ける坂さんですが、現在に至るまでの道のりにはさまざまな迷いや苦悩があったそうです。坂さんは富山県で生まれ育ち、兵庫県にある大学に進学したものの、専攻は芸術や「からくり」の基礎となる機械工学などではなく文学部。「本が好きと

多くの方に、動くペーパークラフトをつくる楽しさを味わってほしい

まな板の上でびちびちと跳ねながら最後の足掻きを見せる鯉や、いつか空を飛べたいと必死に羽ばたきをするペンギンなどのユーモラスなワンシーン。さらには残り「切れのピザを前に様子うかがい合う2人、退屈な映画に眠くなり座席からずり落ちそうになる男性など、日常にあるどこかコミカルな光景。ペーパーエンジニア坂けいすけさんの作品には、思わず笑みがこぼれてしまう、エスプリの効いた独自のエッセンスが盛り込まれています。その世界観を表現するうえで大きな役割を担っているのが、紙でできた「動く仕掛け」です。モチーフとセットになったボックスには、ギアやクランク、カムといった複雑な動きを生み出す機械要素が組み込まれており、側面のハンドルを回すと「からくり」が作動。モチーフのパーツが動くことで、時に愛らしく、時に茶目ツ気のある予想外の物語が始まります。そのアイデアの源について聞いてみると、「日常のあるあるに加えて、物語や映画、時にはことわざや慣用語にヒントを得ることもあります。タイトルだけが先に決まる作品もあるんですよ。モダンオートマタ(現代の西洋式機械人形)の本場イギリスでは、動きの精緻さを競う古典的ながら人形とは異なり、シンプルながらも風刺や皮肉を効かせた作品が数多くつくられているそうです。「生来、あまのじゃくな性格もあって、その影響を受けている部分も多いと思います」と坂さん。

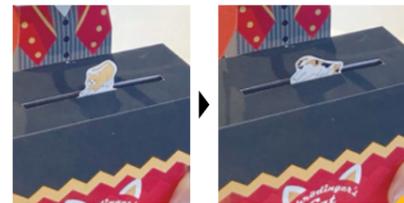


坂さんのペーパークラフト作品やからくりモデルなどを収録した著書。左から、『からくりの素』(2007年/集文社)、『KARAKURI WORKSHOP - Making Paper Toys That Move』(2021年/Alphabet Education・インド)、『KARAKURI - How To Make Mechanical Paper Models That Move』(2010年/St.Martins Griffin・アメリカ)



JT生命誌研究館が発行する「季刊・生命誌カード」の付録として作った作品。坂さんは2002年から誌面のグラフィックデザインと付録の制作を担当している。

Pick Up!



シユレーディングの猫

モチーフは、物理学者・シユレーディング博士による思考実験。手品師に扮した博士が箱を開閉すると、生きていた猫と死んだ猫が交互に登場する。



動画はこちら!



魔法のレシピ



デンマーク滞在中に制作した、名作椅子をモチーフにしたペーパークラフト作品。



坂さんが構造設計とブックデザインを担当するしんげ絵本『あかちゃんがよるこぶしかげほん』(作・ひらぎみつえ/ほるぶ出版)。刊行から10年でシリーズ30冊を数え、総発行部数は300万部を突破。台湾や韓国、中国でも翻訳版が出版されている。



神奈川沖浪裏



間の悪い訪問者



ウサギとカメ



坂さんの創作を生み出すアトリエ。並べられた作品を覗いているだけでも楽しい。

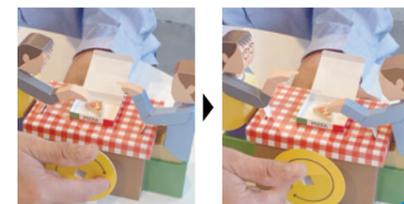


山積みされた試作品モデル。制作工程は建築に近く、正面図・側面図・図面の三面図を描き、それをもとにパソコン上で展開図をつくっていく。



素顔の白鳥

Pick Up!



遠慮のかたまり

残り一切れになったピザをはさんで座る二人が、相手の様子をうかがいながら手を伸ばそうしているワンシーン表現した作品。



動画はこちら!



工作作家の方に話を聞きに行ったり、仕事の手伝いをさせてもらったりしたこともあったそうです。その後、思いがけず過ごすことになった異国の地で新たな刺激を受け、時間をかけて自分が本当に好きなことに向き合い打ち込んだことで将来についての迷いが一気に晴れたそうです。

坂さんは、デンマークに滞在している期間を使って「からくり」の仕掛けについて学び、作品の試作を繰り返す日々の中で、北欧風デザインの椅子をモチーフにした紙製工作キットの販売にも着手。自身が設計した作品づくりを楽しむ地元の方々の姿に、心からの喜びを感じたそうです。「帰国後、日本でペーパークラフトの展示会に出展した際、お子さんはもちろんですが付き添いで来た大人も、思わず笑みをこぼす姿を見ることができた。私の作品は年齢を問わず楽しめるものばかりなので、より多くの方が、平面的な紙に手を加えることで立体になつていくペーパークラフトの面白さ、組み立てた作品が動く楽しさを味わってほしいですね。坂さんが手掛けるのは、人間や動物だけでなく、建築や家具、乗り物をモチーフにした立体ペーパークラフト、さらには乳幼児向けの仕掛け絵本など広範囲に及びます。誰もが日常的に親しむ紙に、「楽しさ」や「驚き」という付加価値をもたらす坂さんの創作活動に終わりはありません。

今号の「作る」は、坂けいすけさんが考案・設計したオリジナル絵本を収録！併せてお楽しみください！



和紙の柔らかい毛羽を活かした  
温かみのある立体アニマル作品

もふもふとした愛らしさと温もりを感じるミニチュアサイズのペーパークラフト。伝統的な和紙の風合いを活かしつつ、ふんわりとした動物の質感を表現した作品は、SNSで注目されて以来、愛犬家を中心に大きな話題を呼んでいます。作者であるキウムさんは、ちぎった和紙の毛羽立ちを毛並みに見立て、多彩な動物を一枚の和紙から立体化する和紙切り折り紙作家です。アトリエでのインタビューを通して、その作品の魅力に迫ります。



キウムさん  
和紙切り折り紙作家

保育園勤務とペーパークラフト作家の二足の草鞋を履いている。園児からのリクエストをきっかけに、2012年頃から創作活動を開始。一枚の紙を切って折って立体にする「切り折り紙」の面白さに魅了され、のちに和紙の毛羽を活かす独自の表現を確立する。

INFORMATION



キウムさんの動物作品(完成品)やオーダーメイド作品は、オンラインストアにて購入できます。オーダーメイド作品は抽選販売となるため、詳細はXやInstagramなどのSNSアカウントでの告知内容をご確認ください。



オーダーメイド作品は、2頭(または3頭)セットでの注文も可能。右上は、依頼主からの提供写真。その他は完成作品。

和紙切り折り紙作品の制作工程

- 1 テスト用の和紙を使っておおよそのフォルムにカットし、全体のバランスを調整する。
- 2 試作品を確認しながら、犬種ごとの展開図データをアレンジ。写真を基に色味や配色を行う。
- 3 本番用の和紙に印刷した後、刃の薄いハサミで展開図の線に合わせてラフにカット。
- 4 見当に合わせて二つ折りの折り目をつけた後、手で裂くようにちぎって毛羽立たせる。
- 5 ペンなどを使って型を付けることで、丸みのある自然な曲線に仕上げる。
- 6 左はテスト用の和紙を使った試作品、右は本番用の和紙を使った完成作品。

——普段は保育園で勤務されているそうですが、創作活動を始めるきっかけは何だったのですか？

保育園で勤務する中で、子どもたちからのリクエストを受けてフリーハンドで工作していたことが切り折り紙の世界に興味を持ったきっかけです。元々キツネやタヌキが好きで、その毛並みの表現を考える中で和紙を使うことにたどり着き、他の動物もつくってみようかなという軽い気持ちで犬の作品を創るようになりました。和紙でつくったシェットランドシープドッグの作品をSNSにアップしたところ10万近い反響があり、現在はさまざまな犬種や毛色の作品や、ご依頼いただいた方の愛犬をモデルにしたオーダーメイド作品を手掛けています。

——犬をモチーフにした作品の反響が大きかったのですか？

キツネやタヌキなど他の動物作品も好評ですが、愛犬家の方は家族の一員であるペットに対する思いが深く、とくにグッズ販売の少ない犬種を飼っている方から喜んでもらえる声が多かったため、現在の販売スタイルになりました。それまであまり犬に関する知識がなかったのですが、それを機にいろいろな犬種について詳しく調べるようになりました。今ではオーダーをいただいた飼い主の方に心から喜んでもらえることが、一番のやりがいになっています。



(上)キウムさんは「和紙ならではの毛羽と美しい風合いが重要」と語る。(右)整理整頓されたキウムさんのアトリエ。撮影用のセットも完備している。

——独自の作風を確立するうえで特に苦労したことは？

何よりも作品に合った和紙を探すのが大変でした。和紙の繊維にある程度の長さがないと毛並みが表現できませんし、パソコンで作成したデザインデータを印刷するため、和紙とプリンターの相性も重要になります。そのほかにも、ちぎるのに適した紙の厚さやインクとの親和性など、いろいろな要素を踏まえてさまざまな和紙を取り寄せて検証し、現在使用している「伊勢和紙」と「阿波和紙」に行き着きました。

——オーダーメイドの作品づくりの流れを教えてください。

オンラインの注文サイトに注文をいただいたのち、ご提供いただいた写真を基に個性を反映したデザインを創作していきます。つくったことのない犬種やミックス犬の毛色や模様など個体に合わせて調整し、可能な限り、洋服やリボンなどの装飾品のご要望にも対応しています。完成までにLINEで仕上がりをご確認いただきながら修正を行うなどそれなりに時間を要するため、現在は抽選で数量を限定して注文をお受けしています。

——注文した方からはどのような感想がありますか？

ご依頼いただく方の中には、亡くなった愛犬の作品を依頼する方も多く、居間や仏壇に飾ってくれているそうです。「あの子が帰ってきたようで涙が出ました」「オーダーして良かった」などの感想をいただくと心から嬉しいですし、これからもできる限りご要望にお応えしていきたいと考えています。

——今後の抱負をお聞かせください。

将来的には犬だけでなく猫など他の動物作品にも挑戦したいと思っていますし、背景を立体的に表現するジオラマと組み合わせた作品にも興味があります。あとは、子ども向けのワークショップをやりたいと思っています。子どもたちからのリクエストを受けて即興で私が線画を描き、子どもたちは紙を切って作品になる。保育園でも「これつくって」と頼まれたものに対して、どうつくればいいのかを考えるのが楽しいので、ぜひ近いうちに実現したいと思っています。



https://www.kpp-gr.com/ja/tsunagu.html

各ブックストアの詳細は、左記QRコードからPDFをダウンロードしてご覧ください



ショウアンブク  
松庵文庫

東京都杉並区

58号掲載  
2024年4月発行

東京都杉並区松庵3-12-22  
☎ 03-5941-3662  
https://shouanbunko.com/

スノウ ショベリング ブックス アンド ギャラリー  
Snow Shoveling Books & Gallery

東京都世田谷区

62号掲載  
2025年4月発行

東京都世田谷区深沢4-35-7 2F-C  
☎ 03-6432-3468  
http://snow-shoveling.jp/

アールビーエル カフェ  
RBL CAFE

東京都世田谷区

57号掲載  
2024年1月発行

東京都世田谷区代沢5-32-12  
☎ 03-6805-2046  
https://rblcafe.jp/

ホンヤ ビーアンドビー  
本屋B&B

東京都世田谷区

47号掲載  
2021年7月発行

東京都世田谷区代田2丁目36-15 BONUS TRACK 2F  
☎ 03-6450-8272  
http://bookandbeer.com/

マチライブラリー @ MUFG PARK  
まちライブラリー @ MUFG PARK

東京都西東京市

63号掲載  
2025年8月発行

東京都西東京市柳沢4-4-40 MUFG PARK  
https://machi-library.org/where/detail/8096/

ブックス アンド カフェ ブーザンゴ  
books & café BOUSINGOT

東京都文京区

45号掲載  
2021年1月発行

東京都文京区千駄木2-33-2  
☎ 03-3823-5501  
https://www.bousingot.com/

ブックカフェ デイズ  
Bookcafe days

東京都渋谷区

48号掲載  
2021年10月発行

東京都渋谷区鶯谷町15-10 ロイヤルバレス渋谷 1F  
☎ 03-3461-1554  
https://ehonbox.net/hp/bookcafe-days-homepage/

ソウ コモン  
窓 common

神奈川県鎌倉市

51号掲載  
2022年8月発行

神奈川県鎌倉市鎌倉山2-19-31  
☎ 0467-80-2736  
http://so-common.com

ブック カフェ ハレキタザワ  
Book Cafe Hale Kitazawa

東京都足立区

54号掲載  
2023年5月発行

東京都足立区六月2丁目33-3  
☎ 03-3859-1141  
@bookcafehalekitazawa



■東京都西東京市

■東京都23区



■神奈川県鎌倉市・中区

アーキシップ ライブラリー アンド カフェ  
Archishop Library & Cafe

神奈川県横浜市

56号掲載  
2023年10月発行

神奈川県横浜市中区吉田町4-9  
☎ 045-326-6611 (Archishop Studio Inc.内)  
https://libraryandcafe.wordpress.com/

アンテナ ブックス アンド カフェ ココシバ  
Antenna Books & Cafe ココシバ

埼玉県川口市

50号掲載  
2022年5月発行

埼玉県川口市芝5-5-13  
☎ 080-6050-7194  
https://cocoshiba.com/



■埼玉県川口市

ブンキツ ロッポンギ  
文喫 六本木

東京都港区

64号掲載  
2025年10月発行

東京都港区六本木6-1-20 六本木電気ビル1F  
☎ 03-6438-9120



■千葉県習志野市

コミュニケーションギャラリー フゲンシャ  
コミュニケーションギャラリー ふげん社

東京都目黒区

52号掲載  
2022年11月発行

東京都目黒区下目黒5-3-12  
☎ 03-6264-3665  
https://fugensha.jp/

これまでにピックアップした全店舗を総まとめ

## TSUNAGU BOOK STORE LIST

TSUNAGUでは、2014年4月(19号)から2020年4月(43号)まで、紙の魅力を感じていただける催しを紹介する「ペーパーイベント・カレンダー」企画を掲載してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛・制限を受けて企画を終了。新たな企画として、「本を介したコミュニケーション」を生み出すブックストアをピックアップし、2021年1月(45号)から2025年1月(64号)までの4年間にわたってご紹介してきました。ブックストアの紹介は本号をもって終了となりますが、人と人の結びつきによって知と創造を育む数多くのブックストアをご紹介できたことは、とても価値のあることでした。最終回となる今号では、これまでにご紹介したブックストアを一覧できる全店舗リストをご用意しました。TSUNAGUを設置していただいている店舗もありますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

ブック ハウス カフェ  
Book House Cafe

東京都千代田区

55号掲載  
2023年7月発行

東京都千代田区神田神保町2-5 北沢ビル1F  
☎ 03-6261-6177(本) 03-6910-0819(カフェ/バー)  
https://bookhousecafe.jp/

エスバス ビブリア  
ESPACE BIBLIO

東京都千代田区

53号掲載  
2023年2月発行

東京都千代田区神田駿河台1-7-10 YK駿河台ビル B1F  
☎ 03-6821-5703  
https://www.espacebiblio.jp/

ブックス アンド カフェドレッドノート  
Books & Cafe ドレッドノート

東京都江東区

61号掲載  
2025年1月発行

東京都江東区平野2-3-21 (年明け別途千代田区神保町移転)  
☎ 03-5809-9008  
https://www.dreadnought-2019.com/

ノマブックス  
noma books

千葉県習志野市

59号掲載  
2024年7月発行

千葉県習志野市大久保3-11-19 大和屋ビル2F  
☎ 050-5485-4883  
https://gj0n300.gorp.jp/

カイドー ブックス アンド コーヒー  
KAIDO books & coffee

東京都品川区

46号掲載  
2021年4月発行

東京都品川区北品川2-3-7 丸屋ビル 1F  
☎ 03-6433-0906  
http://kaido.tokyo/

**TSUNAGU設置店**  
こちらのアイコン記載があるお店にはTSUNAGUを設置していただいていますので、ぜひ足を運んでみてください。

※49号(2022年1月発行)でご紹介した「みたかのば -mitaka nova-」は閉店しました。  
※実際に来店される際は、各店のホームページ・SNSにて、営業日・営業時間等をご確認ください。

# 「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというのが、

手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。

手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

## 第四十三回 幸田文

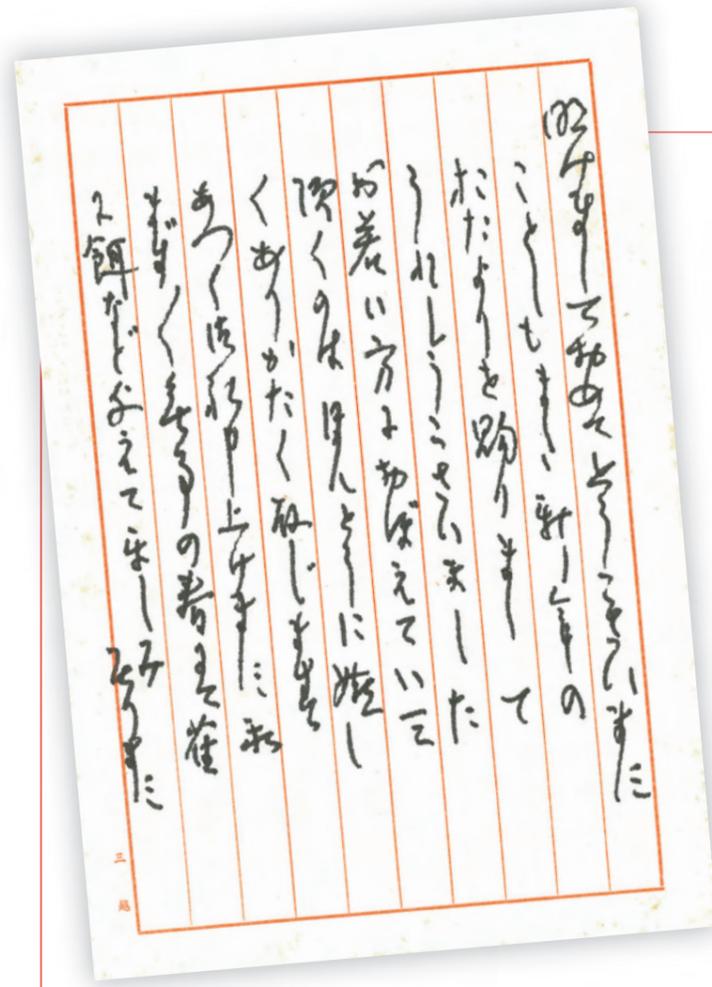
わたしは四十年近いサラリーマン人生の大半をテレビ番組の制作に関わって過ごした。ただ、番組制作に直接関わったのは「人に歴史あり」という、功成り名を遂げた人物の半生を対面形式で紹介する番組のディレクターとしてであり、しかもそれはわずか二年あまりのことだったので、自慢の種にはならない。亀井勝一郎という評論家が「邂逅こそ人生の重大事」といつているが、いま自分の人生を振り返ってみると、あの時代こそが、「人生の重大事」の絶頂期だったのかもしれないという気がする。

「手紙は語る」は今回が四十三回、本誌に十年以上の長きにわたり掲載させてもらっているが、とりあげた人物の多くがその時代に番組をとおして巡り合った方たちであることに気づく。

わたしはこれといった取り柄のないごく普通の人間だが、強いて取り柄を探せば「人間好き」をあげることができるかもしれない。多少個性の強い人も含め、わたしはほとんどの人に興味を覚えつき合いが始まる。「人に歴史あり」という番組ではメインゲストに直接会ってその人生に触れる喜びがあったが、サブゲストにはメインゲストの語らない素顔を聞ける楽しさもあった。いや、同時にサブゲスト自身に会える喜びもあった。メインゲストの選定はプロデューサーの役割だった。出演交渉はディレクターに委ねられた。自慢話めくが、わたしは出演交渉で断られた経験が二回しかない。わたしの出演交渉を断ったのは、幸田文さんと笠智衆さんの二人である。

の後間もなくわたしが台本執筆に関わった松竹の五十年記念番組には快く出演し、発言もしていただいた。昔は分を弁える謙虚な考え方があったのだ。わたしも無理に出演を勧めることはしなかった。

二度直接お目にかかりながら、幸田文さんと何を話したのかはほとんど覚えていない。父が露伴の愛読者で、露伴と鷗外との比較、露伴の伝記文学、その「成吉思汗伝奇」などについて小文をいくつか書いているので、分からないながらそんな話をしたことだろう。父は蒙古史の研究者だったし、露伴と鷗外を日本近代文学の泰斗と呼んで畏敬してもいた。「露伴会」を主宰していたのは、露伴の終焉を看取った土橋利彦さんで、わたしが文さんにお目にかかった頃土橋さんはまだご存命だったが、面識がなかったので土橋さんに話は及ばなかったと思う。わたしは不勉強で、露伴は「五重塔」くらいしか読んでいなかったが、文さんの露伴の終焉を描いた「父こんなこと」は読んでいたのでそんなことを材料に話をつないだに違いない。文さんの書き残したものによれば、露伴はあらゆることに精通していたらしい。祭事や日常のしきたりなどにも詳しく、「女親から教えられる筈であろうことは大概みんな父から習っている。おしろいのつけかたも、障子の張りかたも借金の挨拶も恋の出入りも、みんな父が世話をやいてくれた」という。



## 幸田文

随筆家、小説家  
1904-1990

1904年、東京都生まれ。女子学院卒業後、結婚・離婚を経て父・露伴の晩年を支える。露伴の死後、回想文『雑記』『終焉』で文壇デビュー。代表作に『黒い裾』『流れる』『おとうと』などがあり、読売文学賞、新潮社文学賞、日本芸術院賞、女流文学賞を受賞した。日常の情景や動植物への親しみを綴った随筆も高く評価され、『こんなこと』『みそっかす』『崩れ』『木』など多くの作品を残した。娘の青木玉も随筆家として活躍し、三代にわたる文学一家として知られる。心不全により86歳で逝去。

わたしが幸田文さんを小石川のお宅に訪ねたのは、たぶん昭和四十四年のことだったと思う。なんと半世紀以上前のこと。年譜を繰ってみると、この年彼女は六十五歳、私が三十一歳という若さである。幸田文さんをご存じない読者のため一言すれば、文さんは文豪、幸田露伴の二女、随筆家青木玉さんの母親で作家。露伴の死後、父の思い出や終焉を執筆するうち作家デビュー。代表作、『流れる』『おとうと』『黒い裾』など。亡くなったのが平成二年、八十六歳だった。

お宅に何ったのは二度しかない。記憶は不確かだが、後楽園に近い小休で、しかし立派なお宅にお住まいだった。文さんは、和服の似合う上品な方だった。和室の客間に通されたわたしはまず、わたしの父のことから話し始めた。父は生涯歴史の教師だったが、愛書家で露伴や鷗外に関してもいくつかの著作があり、露伴の研究家で後援者だった土橋利彦（塩谷賢）さんの主宰する愛読者の集い「露伴会」に参加していることを話すと、たちまち会話がはずんだ。幸田さんは父の著作も読んで知っているとおっしゃっていた。ただし、「人に歴史あり」のメインゲストの出演は頑なに拒否された。「わたしごときは、そんな晴れがましい役どころではない」というのがその理由だった。ついでにいえば、笠智衆さんの出演拒否の理由も同じだった。笠智衆さんはテレビへの出演を拒否されたわけではなく、幸田さん同様ご自分が主役を演ずる番組への出演を断られたのである。現に、そ

「父その死」は、文字どおり露伴の終焉を亡くなるまでのほぼ三週間に互り細大もらず描いた文さん初期の文章である。どこまでが本当か分からないが、先に世を去った姉や弟より父の自分への愛情が薄いのではないかと気に病んでいた文の心の葛藤が、臨終の場で解決をみる。優れた描写である。

「ときどき短い間を、ほんとの父にかえてくれるとき、怒涛のような悲しさとなつかしさがおし寄せた。『おとうさん、わかりますか。』『文字だろ。』それは浸み入るような悲しさであり、尊敬すべき父の姿だった。瀕死の状態であつてもなお高い処に寂として父のすがたでいた。はるかかの隔たりを仰ぎ見るおもいがしたことを忘れない。一人のこして行く文字をいとおしみつつ、微笑していたその眼、まことに慈父であった。」

文さんと賀状のやりとりは何度かあったと思うが、わが家に残っているのは、初めてお目にかかった四年後、昭和四十八年消印のある賀状一通だけである。「明けましておめでとうございませす。ことしもまた新年のおたよりを賜りましてうれしうございませす。お若い方におぼえていて頂くのはほんとうに嬉しくありがたく存じます。あつく御礼申し上げます。私ます無事の春にて雀に餌など与えて楽しみ居ります」

わたしは本を読むのが遅い。にも拘わらず、残された時間はすくない。死ぬ間際まで読書だけは続けた。わたしの書架には露伴、鷗外、漱石、芥川など、父の遺した全集がまだ置いたままにしてあるが、まず最初に「露伴」を読んでみようとい思った。



著者略歴  
うえむら ともね  
植村 鞆音 エッセイスト  
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2006年受賞「直木三十五伝」(https://www.rsl.waikei.jp/prize01.html)で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の唄」「気骨の人 城山三郎」など。

## 産学連携プロジェクト「かみのいとOJO+」× 東京モード学園

### STEP1 特別講義を開講

2025年6月18日@東京モード学園

王子ファイバー株式会社の担当者による「OJO+」の特別講義を開講しました。「OJO+」の製造工程や環境性能について解説を受けたのち、実際に「OJO+」の繊維や製品に触れた学生からは、軽さや質感に関する驚きの声とともに、「紙が洗える?」「土に還る素材で服を作る意味は?」といった質問が挙がりました。



### STEP2 デザイン画制作

@東京モード学園

学校でのカリキュラムを通して学んだ知識と独自の価値観、「OJO+」の特別講義から得たインスピレーションを融合したデザイン画を制作。学生一人ひとりがさまざまな視点から「OJO+」の特性と魅力をとらえ、未来を見据えたオリジナル性の高い作品がそろいました。



### STEP4 展示会に出展

2025年10月1日～3日@東京ビッグサイト

学びの集大成として、世界中から約25,000名が来場した「FaW TOKYO (ファッションワールド東京)秋」に、完成した4着のドレスを出展。多くのファッション関係者が注目する中、来場者による人気投票も実施され、原颯汰さんの作品『折華(おりはな)』が最多得票(619票中198票)を獲得しました。



### STEP3 展示4作品を選出

@東京モード学園

同学園とKPPによる選考の結果、4作品が選抜され、「OJO+」の生地を使い、実際の作品が制作されることになりました。ハリ感や吸放湿性といった紙ならではの特性の活かし方や縫製での工夫など、試行錯誤の末に完成した作品は、どれも学生たちの情熱が感じられる出来栄でした。



**東京モード学園**

ファッション・デザイン・ビジネスからインテリア、グラフィック、美容業界まで、即戦力として通用するプロを養成する業界直結型の専門学校。

住所:東京都新宿区西新宿1-7-3  
総合校舎モード学園カウンター

### かみのいと OJO+(オージョ)

KPPグループの王子ファイバー株式会社が手掛ける、地球に優しい天然繊維。詳細はHPにてご確認ください。



**原料** / 成長が早く、農薬不使用で育つエックアドル産のアバカを使用。  
**機能性** / アバカの繊維は中心が空洞になっているため、他の天然繊維に比べて圧倒的に軽量。吸放湿性に優れ、夏は涼しく冬は暖かい、快適な着心地を実現。  
**環境性能** / 製造工程での環境負荷が低く、使用後は土中の微生物によって分解され自然に還る(生分解性)、完全循環型の素材。



### 編集後記

この文章を書いているのは校了間近の12月下旬ですが、まだ今回の付録である「ペーパーラフト」からくりで動く「ベガサス」の試作品を作り終えていません。そのくらい今回は難易度が高くなっています。

本誌が創刊して約18年の歴史の中で、はじめての動く仕掛けを持ったクラフトです。毎号、どのページも新しさを求めて制作していますが、いつかやってみたかったことが動く仕掛けの「パイオニア」であり、ペーパーエンジニアの坂井いすけさんとコラボレーション企画でした。

坂さんは最初から「こういうお仕事はされていたのではなく、ある時々に退職され異国の地へ渡ってペーパーラフトの世界へたどり着いたそうです。坂さんは淡々と過去を振り返って、なるようになってきたのだとおっしゃいました。

「慣れた環境を手放すときには、決意が要るように思いますが、そういった場面はあったのですか?」と伺ったところ「何かになるうとか、こうあらなくてはならないということではなくて、そういう時代だったんですよ」とのこと。

せわしない毎日のなかでついで目的や目標を考えて、今をどう生きるか逆算してしまっていますが、まだ見ぬ自分に出会うために、なるようになる(かもしれない)道中を歩いてみたいのです。

(加藤智香)



当社公式YouTubeでは、本誌の付録を作る様子を収めたショート動画を公開しています。今回のベガサスも新米編集部員が一生懸命作るそうです。翼が羽ばたく様子を見届けてみてください。

## 持続可能な社会の実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

# KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループは「循環型社会の実現に貢献する」というミッションを掲げ、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。今号では、さまざまな業界の注目を集める「かみのいとOJO+」を使用した産学連携プロジェクトの内容についてレポートします。

## 産学連携プロジェクトを通じて、次世代のサステナブルなものづくりを推進。若い感性を映した作品展示によって、「OJO+」の新たな魅力を発信しました。

環境配慮型素材として注目を集める、紙から生まれた天然繊維「かみのいとOJO+(オージョ)」。その可能性を広げ、持続可能なものづくりの意義を次世代へ伝えるため、KPPグループ(国際紙パルプ商事株式会社・王子ファイバー株式会社)と東京モード学園による産学連携プロジェクトが始動しました。

2025年6月にスタートした本プロジェクトには、同校ファッションデザイン学科3年生99名が参加。キックオフとなる特別講義では王子ファイバー株式会社の担当者が「OJO+」の製造工程や環境性能を解説し、学生たちは得た知識をもとにデザイン画を制作。学内コンペティションを経て選ばれた4作品が「OJO+」の生地を使用したドレスとして形となり、10月に開催された国内最大級のファッション展示会「FaW TOKYO」に出展されました。その独創的なデザインと「軽さ」「ドライな質感」といった機能性の高さから、会場では服飾関係者やバイヤーの注目を集めました。

今回の取り組みは、学生に「素材選びから始まるサステナビリティ」を体感してもらう貴重な機会となりました。KPPグループは今後も次世代の才能とともに、紙が持つ無限の可能性を拓き、循環型社会の実現に貢献してまいります。



坂田実乃瑠さん作「透花」



原颯汰さん作「折華(おりはな)」



池田匠さん作「脈状隆起」



小嶋ひよりさん作「Forest Glimmer -森のきらめき-」



## KPPグループホールディングス本社ロビーに 「キャンピングオフィス」ショールームを開設しました

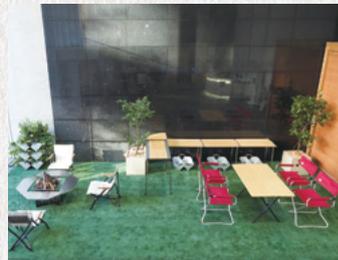
KPPグループホールディングス本社に、新しい働き方を体感できる特別な空間が誕生しました。

2025年12月、エントランスロビーに開設されたショールームは、焚火テーブルやアウトドアチェアが並ぶキャンプ場のような雰囲気。自然の心地よさとビジネス空間が融合した「キャンピングオフィス」を、実際にご体感いただけます。

近年注目を集める「キャンピングオフィス」は、創造性や生産性を高める新しいワークスタイルとして期待されています。屋内でありながら開放感を味わえるこの空間は、社員同士のコミュニケーションを促進し、自由な発想を生み出す場として機能します。

このショールームは、「自然と、仕事が、うまくいく」をコンセプトに掲げる株式会社スノーピークビジネスソリューションズが企画・設計を担当。従来のオフィスの常識を覆し、リラックスと集中が共存する新しい働き方を提案しています。

お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りいただき、未来のワークスタイルをご体感ください。



### 快適空間を演出する、かみのいとOJO+製「ペーパーターフ」

この空間の心地よさを足元から支えているのが、床一面に敷き詰められた、かみのいとOJO+製「ペーパーターフ」です。当社グループの国際紙パルプ商事が販売するこの製品は、従来のプラスチックではなく紙でつくられた人工芝。都市のオフィスにしながら自然を感じられる、サステナブルで快適なワークスタイルを演出します。環境にやさしい素材でありながら、柔らかな質感と温もりを備えたこのペーパーターフは、働く人々に安心感と創造性をもたらす新しいオフィスの基盤。未来志向の働き方を支える足元のデザインとして、持続可能な社会への一歩を象徴しています。

このたび、株式会社竹尾本社内コミュニケーションホールにも導入されました。

※「かみのいとOJO+」についてはP13でもご紹介しています。どうぞご覧ください。



株式会社竹尾 コミュニケーションホール

### INFORMATION

#### ■製品に関するお問い合わせ先

国際紙パルプ商事株式会社  
新事業開発本部 ビジュアルコミュニケーション課  
MAIL : kpp\_pptg@kpp-gr.com

#### ■取材に関するお問い合わせ先

国際紙パルプ商事株式会社  
人事本部 コーポレート・コミュニケーション室  
TEL : 03-3542-4169  
MAIL : kpp\_cc@kpp-gr.com



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライシンキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社  
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行：グループ人事本部 グループコーポレート・コミュニケーション室  
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL (03) 3542-4166 (代)

<https://www.kpp-gr.com/>

TSUNAGU公式インスタグラム  
ID : kpp.tsunagu

ぜひフォローを  
お願いいたします!